

特別養護老人ホーム緑風園・看取り介護パンフレット

ご家族の皆様へ
愛する人の旅立ちにあたって

大切なご家族のお別れが近づいてきたときは、ご家族の方にとって
悩み多く心配な時です。

お別れの時に見られる体の変化を、あらかじめ記しておきます。

予測される状態の意味を知ること、ご家族の心の準備にお役にた
てることを願っています。

食事や水分をとる量が減ってきます。

ご家族にとって、それは受け入れがたい場合もありますが、
体はその準備を始めた時には、食事や水分摂取の量が減るのは、
ごく自然なことです。

少ない量でも、ご本人が食べたいものを食べられるだけ無理せずすすめ、
ご本人の気持ちを大切にするように努めます。

眠っているように見える時間が長くなります。

意識が薄れ、呼んでも返答がなくなりますが、
最期の時まで「耳」は聞こえています。

ご家族の声や手が、ご本人が安心を得ることになります。

側にいて、手を触れ、穏やかに話しかけてください。

ご家族が付き添っている場合でも職員は常に支援に心がけますが
何か疑問がありましたら、遠慮なさらず職員をお呼び下さい。

体がだるくて、身の置き場がなくなると、落ち着かなくなり、大声を出すことがあります。

危険のないようにご本人の周りを整えましょう。

背中や手をさすってあげてください。

トイレに行きたいという気持ちが強いと、急に起き上がったたりすることもあります。

排せつの方法を一緒に考えましょう。

どうしても落ち着かない場合は、主治医に相談しますので看護師にお伝えください。

デスラッセル（死前喘鳴）というものがあります。

唇や口の中が乾燥して、喉もとでゴロゴロという音がすることがあります。

喉の奥にたまった唾液などが振動して音が出ています。

ご本人は苦痛を感じていないのでご安心ください。

顔を横向きにするとよくなることがあります。

痰やお口のケアなど職員が支援します。

終末期の呼吸について

無意識に吐く息と同時に、声が漏れることがあります。

呼吸のリズムが速くなったり、遅くなったり 30 秒前後、呼吸を休むことがあります。残された力を使って呼吸するために、肩やあごを使って呼吸します。これは下顎呼吸(かがくこきゅう)とって、口をパクパクさせ喘ぐような呼吸になります。下顎呼吸は、普段の呼吸には使っていない首やアゴの筋肉を使ってする呼吸のことで、脳が酸素不足になることによって起こります。また血液中の酸素が不足するとチアノーゼとって、唇や指先が紫色になりますが、酸素不足になると脳からエンドルフィンと呼ばれる麻薬のような物質がたくさん出て恍惚状態になり苦しくはありません。このとき酸素吸入をすると苦痛は強くなりますので、静かに見守りましょう。